

松島かきまつりで中山町の芋煮が大好評

2月1日、「第37回松島復興・感謝かき祭り」が宮城県松島町で開催され、昨年6月に当町と松島町との「災害時相互応援協定」が締結された記念として、中山町観光協会が芋煮を無料で振舞いました。

芋煮の美味しそうな香りに誘われ、中山町のブース前には振舞い開始の1時間も前から長い列ができていました。

最後まで行列は途切れることなく、美味しさにおかわりで並ぶ人もあり、用意した約600食分が1時間半でなくなるほどの盛況ぶりでした。

会場内には多くの露店が立ち並び、購入したかきなど海の幸をその場で焼いて食べられる炉端焼コーナーが設けられていたほか、にぎやかなステージイベントなどもあり、終始多くの人にぎわっていました。



寒空の下、中山町のブース前には熱々の芋煮を求める人で行列ができていました。



日本三景の松島、天橋立、宮島のキャンペーンレディのみなさんも遊びに来てくれました。

町内女性の力を結集 女性まつり

まみ細工、ふろしき講習会などの体験会などが設けられたほか、包丁研ぎコーナー、野菜・果物・漬物などの即売コーナー、中山町産の米で作ったおにぎり振舞い、大ホールでは町内の各団体によるステージ発表が繰り広げられました。

2月11日、町女性団体連絡協議会主催の女性まつりが中央公民館で開催されました。

女性まつりはそれぞれの分野で活躍する町内女性の力を結集させ、町の活性化につなげようと毎年この時期に開催しています。会場では女性ならではの華やかな手作り展示ブースや毛糸タワシ作りやつ



商工会女性部による『ふろしき講習会』



華やかなステージ発表会

なかやま雪中カルタ大会

2月1日、「第28回なかやま雪中カルタ大会」が町民グラウンドで開催され、町内の小学生とその保護者ら552名が雪上の熱戦に参加しました。

冬の恒例となったこの行事はカルタを通して町のいいところや名所を学びながらふるさとを愛する心を育むことを目的に、青少年育成町民会議や子ども会育成会などが協力して行っているものです。



町内14地区が3ブロックに分かれ、読み手が3つの札を読み上げると、合図で一斉にスタート。今年は雪が降りしきり、カルタが舞い上がるほどの強風が吹く厳しい寒さの中開催。それにもめげず、読み札が読み上げられると元気いっぱい、いっせいに走り出し、白い息を吐きほっぺを真っ赤にしながら懸命に札を探す中山っ子たち。目的の札を見つけると歓声をあげ、全力で雪の上を元気いっぱい走り回っていました。

なかやまタイムスリッパ Vol.22

今から50年前…

1965

(昭和40年)

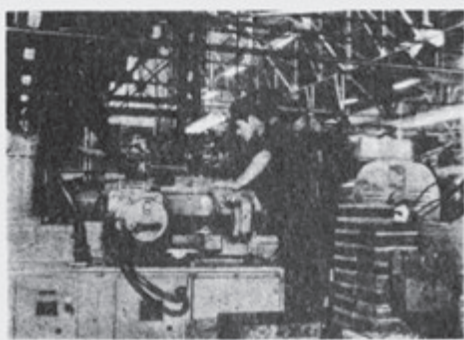
出稼ぎ農家の増加

今から50年前ごろは町の6割が農家で、冬の農閑期は関東地方や中部地方へ4、5か月間、出稼ぎに行くのが主流でした。出稼ぎに行くのは主に農家の30、40歳の男性で、そのほとんどがあまり経費のかからない親戚などをたよって出稼ぎをしていました。

十戸に一人が県外へ 夫婦で労賃共かせぎ

出稼ぎ農家はふえる

多くは関東に



写真は工場で終業を思いながら労働にはげむ手荒出しかせぎ者



案内人 すもものしずくちゃん

年々増え続ける出稼ぎ労働者ですが、県内で職に就けるようになったおかげで、時代の流れとともにだんだんと減少してきています。